

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	建築一体化設備のデザイン出版小委員会		主 査 名：石野 久彌 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：井上 勝夫
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	環境建築の要素技術を「見る」、「使う」、「学ぶ」の視点から解説する出版物の発行を目指して、①内容構成・執筆者を検討し、計画を具体化する、②執筆者の提案した内容を吟味し原稿を作成する、③原稿の査読を行い、質を高め、全体の表現の統一性も高める、④出版物として完成させ発行する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	石野久彌 (首都大学東京)、丹羽勝巳 (日建設計)、郡公子 (宇都宮大)、宇田川光弘 (工学院大)、羽山広文 (北海道大)、長井達夫 (東京理科大)、中山哲士 (首都大学東京)、下正純 (竹中工務店)、藤村淳一 (大成建設)、丸山純 (松田平田建築設計事務所)、柳井崇 (日本設計)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2010 年度予算	円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	「環境建築のしくみ (仮)」
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境建築の要素技術を 13 種抽出し、「見る」、「使う」、「学ぶ」それぞれの節の特徴を明確化した執筆方針を企画できた。 2. 原稿内容の審議を繰り返し、広い読者層を想定する質の高い内容となった。 3. 当初の計画通り、今年 5 月に刊行の見込みである。 以上より、目標の達成度は 100% といえる。
委員会活動の問題点・課題	1. 特になし 2. 3.

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共

通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2010 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今年度の具体的活動は次のようなもので、当初の目標を、十分に達成した。</p> <p>1. 出版物の内容構成の検討 第1回の委員会で、以下の方針を決定した。 ①環境建築の要素技術を「見る」、「使う」、「学ぶ」の視点から解説する出版物とする。②「見る」の節は、写真を多用し見学可能な建築を紹介する、意匠設計者に執筆を依頼する。③「使う」の節は、実務設計に利用可能なデータを掲載し、設備設計者に執筆を依頼する。④「学ぶ」の節は、実務のほか卒論・修論にも参考になる内容として研究者に執筆依頼する。</p> <p>2. 原稿素案の吟味と査読 脱稿まで、素案検討の委員会を10回開催し、質の向上と全体の統一性を高める努力を行った。委員会審議のほかに、「見る」、「使う」、「学ぶ」別の担当者打合せを必要に応じて開催した。査読は、「見る」、「使う」、「学ぶ」別の全章通した査読、各章「見る」、「使う」、「学ぶ」についての査読を行った。</p> <p>3. 出版物の刊行 当初の予定通りに、順調に作業を進められた。2011年5月発行予定である。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。